

第5学年 図画工作科授業実践事例

1. 活動の指針（活動を通して育てたい力）

b-ふくらむ思い

感じたことや想像したことなどを形や色で思いのままに表す活動を楽しみ、より心地よいもの、美しいものへと新たな思いをふくらませながら表すことを大切にしていく。

2. 題材名 「イメージさせるすてきないす」（立体で表す）－8時間扱い－

3. 活動の指針と題材のかかわり

表現することが大好きな子どもたちである。図工の学習をととも楽しみにしていて、5年生になって取り組んだ風景画では構図や色のぬり方を工夫しながら意欲的に活動していた。その際、「遠近法」や「色のぬり方」など新しく学習したことを積極的に取り入れる柔軟性が見られた。このように、新しく学んだことを取り入れることで、自分の表現の幅を広げていこうとする子どもたちである。

本題材は電動糸のこぎりに初めて出会う題材である。電動糸のこぎりという新しい用具や新たな技法に出会うことで「つくってみたい。」という思いをふくらませながらつくり、つくることを通して表現方法の幅を広げていってほしいと願っている。

本題材では、「座った人が、その世界をイメージできる椅子をつくろう。」と投げかけ、「椅子」をつくる。初めて電動糸のこぎりと出会った子どもたちが電動糸のこぎりを使って板を自分の思いに合わせてながら切ることを楽しみ、切り取った形を組み合わせることで、発想・構想する力を高めるとともに、電動糸のこぎりの基本的な使い方を学んでいってほしいと考える。

ここでの椅子は、①背もたれ②座る面③脚に着目した。背もたれから脚までをトータルでデザインすることで、子どもたちの新たな発想を生み、様々なデザインが表れると考えた。また、椅子をつくることで、デザインされてつくられている身近なものを見つめなおすきっかけとなればと思っている。しかし、背もたれの大きさ・形によっては、組み立てたときにバランスが悪く立たなくなることも考えられる。そのようなときでも、自分のつくりたい椅子に近づけるために試行錯誤しながらつくり続け、子どもたちが表現方法の幅を広げていくとともに、工夫してつくりあげる喜びを感じられるような学習を構想していきたい。

4. テーマにせまるための具体的な手立て

(1) 視点1「思いをふくらませる」

○導入では、世界の椅子の写真を用意し、形や色といった椅子の幅広いデザインを感じ取れるようにする。また、参考作品を提示し、色や形に着目しながら題名やテーマを全員で考える場面をつくる。参考作品を見ることで、美しいデザイン・楽しいデザインを意識しながら「つくりたいという思い」が高まるとともに、自分の椅子をデザインするときの色や形につながるヒントになるようにしたい。

○発想を広げるために、イメージマップ（※下図参照）で十分にイメージをふくらませるようにする。文や言葉でまとめたイメージは、子どもがスケッチをかいいたり、つくったりする際のデザインのよりどころとなるとともに、教師の具体的な手立てにもつながると考える。最初にみんなで一緒に「海」を例にしてイメージマップをつくり、次に自分の表したいものについてイメージマップをつくる。そのようなステップをふむことで、思いをふくらませていってほしい。

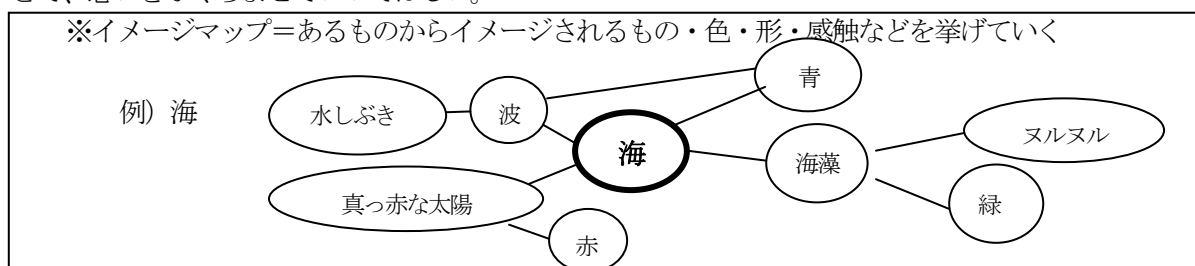


図5年—11

- アイディアスケッチをかくときには、イメージマップをもとにして、背もたれ、座面、脚をデザインしていく。その際に、電動糸のこぎりで切りやすいようにシンプルな形であらわすこと、すてきなデザインを意識することなどを投げかけたい。
- 随時鑑賞の時間を設け、友達作品を見ることで、つくる過程において新たな発想や構想が生まれるような学習を構成していきたい。また、最後の鑑賞の時間にもお互いの作品の工夫しているところに気づけるようにしたい。そして、この気づきが次の題材において生かされるようにしたい。

(2) 視点2「思いをかたちにする」

- 子どもは初めて電動糸のこぎりを使う。電動糸のこぎりの正しく安全な使い方を指導するとともに、活動の際には広い空間をつくり、安心して活動できるようにする。また、ヒントコーナーに直線やギザギザ、曲線の切り方を示し、子どもが自分の思いえがく作品の完成のイメージに迫れるようにする。初めは自分の思い通りに切れないことが予想される。「失敗しても大丈夫。」という安心感をもって作業できるようにするため、一度切ってもまた長さは調節できることなどを伝える。不要になった板も集めておき、使うことができるようにする。
- 板は、電動糸のこぎりで切れる厚めの板を選ぶ。厚めの板にすることで接地面が広くなり、接着しやすくなる。また、板とは別に様々な形の補助材を用意し、スムーズに接着・組み立てができるようにする。
- 釘で接着することも考えられるが、板の強度を考え、今回はボンドを選んだ。ボンドがある程度乾くまでは手で押さえておくこと、どのように木材を組み合わせると頑丈になるかを考えることなどをおさえるようにする。
- 組み立てる際に、思い通りに立たないときは、どうすれば立ちそうか、何が原因で立たないのかを考えさせながら、座面の裏におもりをつける・脚の位置を変えてみる・補助材を利用するなど、その子の作品に合った具体的な方法を示す。その際、子どもが自分の作品に合った方法を選べるようにする。
- 着色の際には、色づかいや水の量などについて考えながら着色するよう伝える。また、色をぬるタイミングは、①組み立ててからぬる②パーツごとにぬる、ということをも自分で計画的に取り組めるようにする。

5. 題材のねらい

- 椅子の背もたれから脚までをトータルにデザインしたり、自分のイメージに応じて板の形や組み立てかた、着色のしかたを工夫したりしながら、表現したい内容がよくわかる椅子をつくる。

6. 題材の評価規準（重観点・◎）

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	○自分のつくりたい椅子に向かって、工夫しながらデザインしたり、板を切ったり、組み合わせたり、色をぬったりし、自分らしくよりよい表現を目指して試行錯誤しつつ創意工夫しようとする。	◎背もたれから脚までをトータルでデザインするとともに、自分の思いを実現させるために形や組み立て、着色の構想を練ることができる。	○思いのままに電動糸のこぎりを使って板を切り抜くことができる。 ○自分の思いに合わせて、板の組み合わせや色の使い方を工夫して表現することができる。	○お互いの椅子のよさに気づき、話し合いながらそのよさを認めあうことができる。

7. 準備

- 《子ども》 鉛筆・色鉛筆・油性ペン・水彩絵の具 など
- 《教師》 世界中の様々な椅子の写真・参考作品・シナベニヤ（B4サイズ、厚さ5.5mm）・木材・電動糸のこぎり・（のこぎり）・水彩絵の具・キリ・木工用ボンド・紙やすり・ニスなど

8. 指導と評価計画（8時間扱い）

時間	○活動内容 ☆★予想される子どもの姿	◆教師の働きかけ 【評価規準】・・・評価方法
一 次 4 5 分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">いろいろな形のいすからイメージを広げよう。</p> <p>○世界中の椅子の写真を見て、同じ「椅子」でも様々な形や色のあることを知る。 ○参考作品を見て、題名、テーマを考え、何をイメージさせる椅子であるか発表する。 ☆椅子のパーツや色づかいから連想できている。 ・『妖精のいす』だから羽が生えているんだね。」 ・『海のいす』だから青中心の色づかいをしているんじゃないかな。」 ・「惑星があるし、『宇宙のいす』だと思う。」 ・『ダイヤのチェアー』の背もたれの部分が好きだなあ。」</p> <p>★連想しようとしているが、イメージが浅い。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「イメージさせるすてきないす」を考えよう。</p> <p>○イメージマップで自分のつくりたい椅子のイメージをふくらませる。</p> <p>○自分のイメージをもとに、アイディアスケッチをし、おおよその構想、着色の計画をする。 ☆自分の表現したい椅子のイメージがどんどん広がっている。 ・『空のいす』だから、雲や虹で形を表していこう。」 ・『ハート・エンジェル』だから、ピンクや曲線を中心に表現して、天使が楽しく踊っているイメージにしよう。」</p> <p>★表したいものがあるが、形が思い浮かばない。 ・『神々の椅子』を作りたいけど、どんな形や色にしようかな。」</p>	<p>◆後で自分のつくりたい椅子のイメージを広げるときヒントとなるよう、できるだけ多くの考えを取り上げる。</p> <p>◆「○○のどこが好き？」という投げかけで、子どもが作品の様々な部分に注目するようにしたい。</p> <p>◆パーツや色づかいなどから連想されるテーマは何か、なるべく視野を広げて考えられるようにアドバイスする。</p> <p>◆「イメージさせる」いすなので、キャラクターは使用しない。</p> <p>◆ここで、一人一人がイメージしているものを確かめ、アドバイスする。</p> <p>◆「椅子」は①座る部分②背もたれ③脚があるものとするのを伝える。</p> <p>◆いくつか絵で例を示す。</p> <p>◆作っていくうちにイメージが変わることもあるので、おおよその構想でよいことを伝え、安心してかけるようにする。</p> <p>◆「○○といえば・・・どんな○○？」と投げかけて、ヒントとなるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【関】【発】・・・ つぶやき、 イメージマップ アイディアスケッチ</p> </div>

電動糸のこぎりの正しい使い方を知ろう。

二次
270分

○木を自分の思いのままに切るための道具に電動糸のこぎりがあることを知り、正しい使い方を学ぶ。
☆電動糸のこぎりを使うことを楽しみにしている。
・「電動だから、早くきれいに切れそうだね。」
・「のこぎりと違って疲れない気がする。」

★電動糸のこぎりを使うことに抵抗が見られる。
・「音がこわい。電動で刃が速く動いているから手を切りそう。」

◆安全上の留意点を伝えるとともに、約束を徹底する。
・刃のつけ方
・切るときの注意
→①正面に立つ（姿勢）。
②板を手で押さえてゆっくり切る。
③指が刃の前に出ないようにする
・切っている近くを歩かず、手を出さない。
※刃がぬけてガタガタなときもあわてず、落ちて着いてスイッチを切ればよいことを実演で伝える。
◆最初に電動糸のこぎりのできる切り方を紹介し、ヒントコーナーにも示す。
・曲線
・ギザギザ
・直角（刃の向きのかえ方）
・くりぬき（穴をあけて刃を通す方法）

アイディアスケッチをもとに、「イメージさせるすてきないす」をつくろう。

○アイディアスケッチをもとにつくる。
～完成までの見通し・・・6時間～
・板に下絵をかく

・切る
・組み立てる
・色をぬる

2ピース切ったら交代し、やすりがけする。
（時間差が生まれる）

☆自分の思う通りに作業が進んでいる。
・「板の下書きの通りに板が切れたよ。」

★つくりたいもののイメージはあるものの、形が難しくてうまく切れない。
・「花びらの座面をつくりたいけれど、難しい。」

☆積極的に新しい試みをしたり、つくりなおしたりしている。
・「最初につくろうと思っていた形とは少しかわってしまっただけで、こっちの方が合うな。」
・「ギザギザは最初こわかったけれど、だんだん慣れたから、どんどんこの切り方を使っているよ。」

☆バランスを考えて組み立てている。
・「背もたれが思いけれど、脚を工夫すればいいね。」

★組み立てのときにバランスがとれず、立たない。
・「背もたれが重すぎて後ろに倒れちゃうよ。」

◆色のぬり方・ボンドでの接着の仕方を伝える。
→「マヨネーズぬり」など

◆アイディアスケッチをもとにつくるが、つくっていくうちに形がかわってもよいことを知らせる。

◆組み立ての際に補助材を使えるようにするが、出すタイミングを考え、材料探しに意識がたむかないようにしたい。

◆脚などの接着のしかたを説明し、モデルで補助材の使い方を示す。

◆安全に作業できているか確認しながら、電動糸のこぎりの使い方を個々にアドバイスしていく。

◆柔軟に活動している子どもを認め、その良さを全体に広げて参考となるようにする。

◆ヒントコーナーを参考にするよう伝えるとともに、その子の求めているものに対して具体的なアドバイスをする。

◆随時鑑賞の時間を設定し、つくり方を参考にしてもよいことを伝える。

◆補助材を置いて固定したり、友達に支えてもらったりする方法を伝える。

	<p>※組み立ててから着色するか、パーツごとに着色するかについては、自分が効率よく進むと思う方を選ぶ。</p> <p>☆木にあった色のぬりかたを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マヨネーズぬりだと色がきれいだよ。」 <p>★着色するとき色がうまくのらない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絵の具が木に染みていく感じがする。」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆背もたれが重くてバランスがとれなくなる場合は、どうすればバランスが取れると思うか投げかけ、脚の形や太さ、重心などアドバイスしていく。 ◆色をぬるタイミングについての話が児童から出てきたら、細かい部分をぬるのは組み立て前がよいとアドバイスする。 ◆水を少なめにすると、むらなく色がぬれることを教える。 ◆十分な絵の具を用意しておき、使えるようにしておく。 <div data-bbox="895 645 1453 741" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【発】【技】・・・活動の様子、表情、つぶやき、作品</p> </div>
<p>三次 45分</p>	<div data-bbox="231 795 1428 846" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> <p>友達のいすの良さ、表現の工夫を見つけよう。</p> </div> <p>○自分の思いを椅子として立体で表すときの工夫、表現内容など、気がついたことを鑑賞カードに書き、お互いの作品の良さを味わう。</p> <p>○お互いの作品の良さについて気づいたこと、考えたことを発表する。</p> <p>☆友達の作品のテーマと形、色などを関連づけて考え、その良さに気づいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「□□さんの椅子は、『宇宙のいす』というだけあって、星がちりばめられているね。」 <p>★形や色の美しさは感じとっているが、テーマや作者の思いと関連させて考えるまでいかない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「□□さんのいすは、緑色が中心でさわやかだね。」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆鑑賞カードには、いくつか観点を示し、具体的に良さが見つけられるようにする。 ◆それぞれが考えたこと、思ったことを伝え合う場を設定する。 ◆テーマを確認して、関連づけて考えられるようにする。 <div data-bbox="930 1272 1414 1346" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【鑑】・・・発表、鑑賞カード</p> </div>

9. 指導の実際（8時間扱い）（360分）

- 学習活動 ☆子どもの姿 ★支援が必要だと思われる子どもの姿
◆教師の働きかけ

【評価規準】・・・評価方法

○世界中の椅子からいろいろな形のいすからイメージを広げよう。（10分）

- ◆いろいろな椅子を見せ、デザインされた色や形などに関心をもてるようにした。

☆椅子の写真を見て思ったことを発言している。

- ・「丸いボールのような椅子がおもしろい。」
- ・「ペリカンの羽やくちばしの形に似ているからペリカンチェアーなんだね。」
- ・「明るい色がきれいだね。」

「イメージさせるすてきないす」って何だろう。

○この題材の活動の見通しをもつ。

◆座った人が何かをイメージできるような椅子をつくることを伝え、『『イメージさせるすてきないす』をつくらう。』と投げかけた。

(昔の学校の椅子に座ると勉強している当時の子どもや教室が頭に思い浮かぶようだ、というところから導入していった。)

◆今回は板を主材料とし、電動糸のこぎりを使ってつくることも知らせた。

○他校の子どもの参考作品の写真を見て、題名・テーマを考えることを通し美しいデザイン・楽しいデザインにふれたり、作品づくりへの見通しをもったりする。

◆なるべく多くの考えを聞き、どの考えも認めた。同じ椅子を見ても人によって様々な発想が出てくることを実感できるように心がけた。

☆椅子のパーツや色づかいから題名、テーマを考えることができていた。

- ・「ピンクの色づかいがきれいだね。背もたれが羽根の形だし、『鳥の椅子』かなあ。」
- ・「全体的に青だから『海の椅子』じゃないかな。」
- ・「波のような模様もあるし、きっとそうだ。」
- ・「惑星があるし、『宇宙の椅子』だと思う。」
- ・「とても細かくできている。『公園の椅子』じゃないかな。」

★考えているが、イメージが広がらない。

◆色や形に着目するよう伝えて、広い意味で考えられるようにした。

○教師の参考作品を見て、何をイメージさせる椅子であるか考える。

◆同様に色や形に着目させ、『『先生のいすは〇〇をイメージさせる』の、この〇〇に何が当てはまるだろう?』と投げかけた。

☆積極的に自分の想像したイメージを発表していた。

- ・「色が青中心だから『宇宙』をイメージさせる。」(色に着目)
- ・「ジェットコースターが通っているみたいだから、『遊園地のいす』だと思う。」(形に注目)
- ・「りすのしっぽが木からはみ出しているように見えるから『りすと木のいす』じゃないかな。(パーツとパーツの関連性に注目)
- ・「カラフルな実がなっている木に見えるから、『実のなる木のいす』だと思う。」

◆『実のなる木のいす』という考えには、「えっ。」という声があがったので、「青い木という発想は、すてきな発想だね。」と伝えた。本物の色や形をそのまま表現するだけではなく、「デザインすること」を意識しながら、作品づくりをするよう投げかけた。



○イメージマップを知り、みんなで一緒に広げていく。

◆例として、『海』のイメージマップをみんなでつくった。

☆『海』の色や形、感触などのイメージを発表した。

- ・「海といえば、青い。」
- ・「海は、波のイメージ。」
- ・「砂があって、砂浜は白い。」
- ・「海藻が生えていて、それはヌルヌルしているよ。」
- ・「海藻は緑のイメージだなあ。」



つくりたい「イメージさせるすてきなす」を考えよう。(35分)

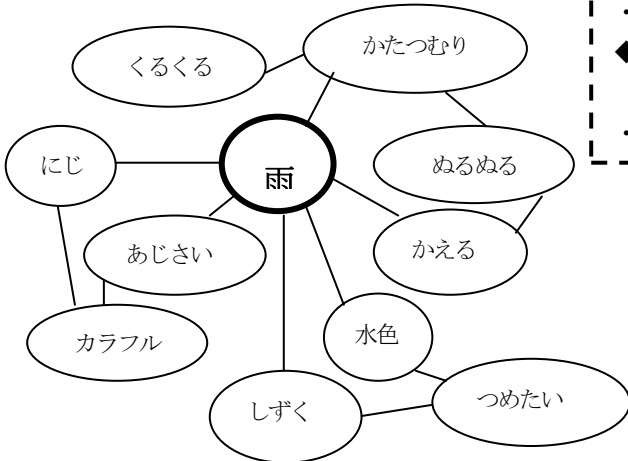
○自分は何をイメージさせる椅子をつくるか考え、イメージマップで自分のつくりたい椅子のイメージをふくらませる。

◆「どんな世界をイメージさせたい？」と問いかけ、言葉を引き出せるようにする。

☆自分のイメージさせたいものを見つけ、どんどんイメージを広げていた。

【子どものイメージマップ】

「レイニーチェア」



★イメージさせたいものが思い浮かばず、悩んでいる。

・「何も思いつかない。」(活動が始まらない。)

◆「どんな景色をイメージさせたい？」と問いかけ、言葉を引き出せるようにする。

・「沼地に沈む夕日をイメージさせよう。」

【「レイニーチェア」のアイディアスケッチ】

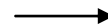


○アイディアスケッチで椅子のデザインをする。

◆「シンプルな形でパーツにしよう。」と投げかけた。

☆イメージマップをもとに、パーツの形や色を工夫しながらアイディアスケッチをかいていた。

【くねくねチェア】のアイディアスケッチ



電動糸のこぎりの正しい使い方を知ろう。(10分)

○電動糸のこぎりの正しい使い方を知る。

◆安全上の留意点を伝えるとともに、約束を徹底した。

・切っている近くを歩かず、手を出さない ・刃のつけ方

・切るときの注意

①正面に立つ。

②板を手でしっかり押さえてゆっくり切る。

③指が刃の前にならないようにする。(特に小さいパーツのときは気をつける)

※刃がぬけてガタガタなるときを実演し、どんな時もあわてず、落ち着いてスイッチを切ればよいことを伝える。

○電動糸のこぎりのできる技法を知る。

◆電動糸のこぎりのできる切り方を紹介し、電動糸のこぎりは、安全に使えば便利な道具である

ことを伝え、ヒントコーナーに示した。

・曲線 ・ギザギザ ・直角 (刃の向きのかえ方)

・くりぬき (穴をあけて刃を通す方法)

☆電動糸のこぎりを使うことを楽しみにしていた。

・「刃の動きが見えないくらい速い。早くきれいに切れそうだね。」

・「早く切ってみたいなあ。」



アイディアスケッチをもとに、「イメージさせるすてきないす」をつくろう。(260分)

○完成までの見通しをもつ。

- ・板に下絵をかく
 - ・切る(やすりがけ)
 - ・組み立てる
 - ・色をぬる
- 同時並行する。

◆色のぬり方、ボンドでの接着のしかたを伝えた。

- ・「すてきなデザインを意識した色をつくろう。」
- ・「マヨネーズぬりでぬろう。」
- ・「ボンドでつけるときは、少し乾くまで手で押さえておこう。」

○板に下絵をかく。

- ★板に、アイディアスケッチそのままを下絵としてかいた。
- ◆パーツごとに下絵をかくことを伝え、パーツをどのようにとればよいか教えた。「一つひとつパーツを板にかいていこう。」

○板を切る。

※板にパーツの下絵のかけた子どもから切り始めた。2ピース切ったら交代し、やすりがけした。

何ピースか切れたら、色をぬったり組み立てたりした。(時間差が生まれる)組み立てることを考え、切るピースの順番を考えるとよいことを伝えた。

◆安全に留意し、電動糸のこぎりの作業からなるべく目を離さないように心がけた。

☆自分の思う通りに作業が進んでいる。

- ・「線にそって板が切れた。」
- ・「こんな形が切れたよ。」
- ・「思い通りに切れるから楽しい。」
- ・「慣れるといろいろな切り方ができるようになる。」



【くねくねチェア】のパーツ



- ★「下絵の通りに正確に切れないよ。」
- ◆「全体としてのイメージがくずれなければ、正確に切れなくてもいいよ。」
- ★曲線やギザギザがうまく切れない。
- ◆少しずつ切れる方法を教えたり、板の送りを最初は手伝ったりして、感覚をつかめるようにしたりした。
- ☆ (スムーズにできるようになって)「もう一人でできるよ。」
- ★板が大きくて、回すときにアームにひっかかっていた。
- ◆「どうしたらいいと思う？」と投げかけ、一度刃をはずし、違う方向から切り始めるとよいことに気づけるようにした。
- ☆「なるほど、ちょっとめんどろだけど、こういうやり方をすればいいんだね。」
- ★刃が抜ける、折れる。方向転換のときに一度スイッチを止めてから板だけ無理に回していた。
- ◆抜ける場合は、刃の上下の向きは合っているか、ねじがきちんとしてしまっているか確認した。折れるときは、送る力の加減、板の押さえ方などを確認した。方向転換のときは作動している状態で、自然な力にまかせて板を送っていくことを伝えた。
- 「刃の上下の向きは合っているかな。」「ねじがきちんとしてしまっているかな。」
- 「板を動かす力、板の押さえ方はどうかな。」



☆失敗を次に生かして作業を進めていた。

- ・「次は大丈夫。コツがわかった。」

○色をぬる。

- ☆作品にあった色のぬりかたを考え、色をぬっていた。
 - ・「マヨネーズぬりだと色がきれいだよ。」
 - ・「へびだけど、茶色じゃなくて黄色にしたらきれいだな。」
 - ・「海の青がだんだん水色に変わっていくようにしよう。」

- ★着色するときに絵の具が板にうまくのらない。
 - ・「絵の具が木に染みていく感じがする。」
 - ◆マヨネーズぬりにし、水は絵の具をのぼすときだけ使うくらいのつもりでよいことを伝えた。
 - ◆「友達の色のぬりかたを参考にしてみよう。」
- ☆きれいな着色の仕方に気づく。
 - ・「明るくてきれいな色になった。」



○組み立てる。

- ☆バランスを考えて上手に組み立てていた。
 - ・「背もたれと座る部分が、うまくくっついたよ。」
 - ・「背もたれが重いけれど、脚を工夫すればいいね。」
 - ・「ボンドでくっつけるときに、補助材をこう当てれば頑丈になる。」
 - ・「友達に手伝ってもらったり、補助材を積み上げて支えたりすれば、安定するよ。」(お互いに助け合っている)



- ★組み立てのときにバランスがとれず、立たない。
 - ・「背もたれが重すぎて後ろに傾いてしまうよ。」
 - ◆補助材をおもりにしてバランスをとるとよいことを伝えた。
 - ◆脚のつけかたのモデルを示した。
- ☆「本当だ。バランスよく立つ。」
- ☆「補助材を脚の支えに使ってもいいですか？」
- ★接着がうまくいかない。立たない。
 - ・「ボンドでなかなかくっつかない。」
 - ◆しばらくは押さえておくことや、接地面にボンドを適量つけているか、接地面が平行であるかなどを確認した。
- ☆「ひもで結んで固定してみると安定するかも。」(それを友達にも教える)
- ◆座る部分と脚をつける位置を、バランスを見ながら考えるよう伝えた。
- ☆「ここに脚をつけると、倒れないよ。」
- ◆発想の転換で、補助材と脚や背もたれのつけかたの工夫を示した。
- ☆接着に成功し、次の作業に意欲をもっている。
 - ・「うまくくっついた。」
 - ・「見た目も変わらないし、これでも大丈夫。もう一本の脚もやってみよう。」
- ◆「友達の作品を見て、組み立て方を参考にしてみよう。」
 - ◆脚の長さ、背もたれの大きさ・高さのバランスを考え、切りながら調整していくとよいことを教えた。



○色ぬり、組み立てなどの活動の合間に随時鑑賞する。

- ☆自分の思いに合わせながら、板や色を組み合わせたすてきな椅子が完成する。
 - ・「うまく立った。完成だよ。」



【完成した「レイニーチェア」】



【完成した「くねくねチェア」】

【発】【技】・・・活動の様子、表情、つぶやき、作品

友達のいすの良さ、表現の工夫を見つけよう。(45分)

○できた作品を見せあって、自分の思いを表わすための工夫やお互いの作品の良さについて伝え合う。

◆思いを伝えあう場を設け、一人ひとりの大切な思いを共感しあえるようにする。

☆お互いの作品の良さを味わっている。

・『レイニーチェア』は、色づかいがきれい。」

・『くねくねチェア』は、くねくねした形をよく切れたね。」

【鑑】・・・発表、鑑賞カード

10. 活動を振り返って

本題材において、電動糸のこぎりを初めて扱うという用具との出会いやその特性は、子どもたちのつくりたい、やってみいたいという思いをふくらませていった。「イメージさせるすてきな椅子」をつくるという題材の設定も、椅子が生活に欠かせない身近なものなので子どもたちにはわかりやすかったようである。また、「座った人がイメージできる椅子」をつくるということは、第三者を意識してつくるということである。自分の作品を見る人を意識することで、新たな発想が広がった。

活動の導入で、世界中の椅子や参考作品を提示し、色や形に着目しながら題名やテーマを全員で考える場面をつかったことは、美しいデザイン・楽しいデザインを意識し、「つくりたいという思い」を高めるためには有効だったと思う。また、ここでの話し合いが、自分の椅子をデザインするときのイメージにつながり、色や形のヒントとなっていた。子どもの作品の色づかいや形にも表れていたように思う。

アイデアスケッチをかくときには、イメージマップをもとにして、背もたれ、座面、脚をデザインしていった。自分がデザインに取り入れたいものをマップから選ぶことができ、もしイメージと違ったら別のものを取り入れることができるため、美しいデザイン・楽しいデザインの構成につながった。また、アイデアスケッチをかく前に、イメージマップで十分にイメージをふくらませてからかくようにした。いきなりデザインするよりも、自分が何を表したいのかを考える時間が確保され、自分のイメージに合うデザインになった。アイデアスケッチをもとに、自分の思いをかたちとして実現するというゴールがあることは、子どもの意欲につながることを実感した。

「①背もたれ②座面③脚がある椅子」さらに「すてきな椅子」という条件は、子どもの発想のきっかけとなり、また発想を広げていくことにつながった。また、細かすぎる形をデザインする子どももいたが、その際には電動糸のこぎりで切ることに立ち返り、なるべくシンプルな形であらわすとよいことを伝えた。電動糸のこぎりでできるいろいろな切りかたを知ることで、子どもたちが自分の思いをかたちにすることができた。

アイデアスケッチの段階で、子どもの思いがふくらみ、こだわりのあるデザインとなっていたので、着色をする際には、その色を実現しようとしていた。「マヨネーズぬり」にするとよいことを伝えるとスムーズに活動していた。事前に色をぬるタイミングを伝えていたが、自分の作品と向きあって組み立ての見通しをもって色をぬる計画を立てる子どもが見られたことに感心した。

組み立てには補助材も用いたが、子どもは組み立てに最も苦戦していた。参考となる立たせ方を提示したことは、手立てとして有効であった。接地面が平行でない場合や、脚の長さが違った場合は切りなおすなどして試行錯誤して

いたが、友達に教わったり、自分で工夫したりしながら全員が立たせることができたことに驚かされた。椅子をつくる以上、立って初めて子どもの思いがかたちになる。どの子も一生懸命に取り組み、自分らしい表現の思いをもって進んで表現活動に取り組んでいた。活動の中に必ず鑑賞の時間をとりながら進めていく中で友達の作品を見ることができ、つくる過程において効果的な組み立てかたのヒントとなった。

本題材でねらいとしていたのは、座った人がその世界をイメージできる椅子、①背もたれ②座面③脚の基本形をきっかけに、背もたれから脚までをトータルでデザインしてすてきな椅子をつくるということであった。そのねらいも明確に伝わっていた。条件というきっかけや、「イメージ」という言葉から、思いをふくらませることができた。イメージマップからアイデアスケッチをかくことで、自分の思いをかたちへとつなげることができた。だからこそ、完成した子どもたちの作品を見て、多様な形が生まれたのだと思う。

しかし、教師側の「椅子」のとらえかたを広げておくことも、子どもの発想を広げる手立てにつながることを感じた。例えば、椅子自体を子どもたちの自由な発想に任せることも一つの手段として考えられる。

本題材での技法などの経験が今後につながり、新たに学ぶ表現方法とリンクしながら素晴らしい表現活動につながっていくだろう。また、身近にあるものはどれもデザインされていて、機能とデザインが一体化したものであることに気づき、興味をもつきっかけになればと思っている。

[作品の一例]



図 5 年— 1 1